

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2015年2月24日

氏名：鈴木 志歩

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 日本・アジア文化選修 3年

派遣先大学名：龍華科技大學（台湾）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：約12か月

渡航年月日：2014年2月13日

帰国年月日：2015年1月27日

派遣先大学における授業等の履修状況

授業名	履修期間	講義時間(週)	取得単位数
Basic Chinese	2014年2月～2014年6月	3時間	3単位
Intensive Chinese	2014年2月～2014年6月	8時間	単位なし
Basic Chinese	2014年9月～2015年1月	3時間	3単位
Middle Chinese	2014年9月～2015年1月	3時間	3単位
English Conversation(I)	2014年9月～2015年1月	2時間	2単位
English Writing-Basic(I)	2014年9月～2015年1月	2時間	2単位
Second Foreign Languages(I)-Spanish	2014年9月～2015年1月	2時間	2単位
Second Foreign Languages Listening & Speaking(I)-Spanish	2014年9月～2015年1月	2時間	1単位



学校から眺めた景色

○ 研究・学習概要及び今後の勉強計画

龍華科技大學の中国語の授業は週一回開講の初級中国語と中級中国語、週五日開講の集中中国語（単位がなし）の3つです。多くの交換留学生は半年で帰国するので、新学期に入るとまた新しい交換留学生が来てまた一からのスタートとなってしまう、留学の2学期目は、授業に物足りなさを感じるようになりました。

その時の留学生の学力で授業の方針が変わってしまうので、運が良ければレベルの高い授業も受けることが可能と思います。

中級中国語の授業に関しては、本文を覚える宿題が出され、授業は発音の練習中心で行われました。特に、単位の出る授業に出席する多くが本科生の留学生だったので、私のような交換留学生の授業は毎日ではなく週一回となっていました。

龍華科技大学は他の協定校と違って短期留学する学生のための授業がシステム化されていないため初中級レベルの中国語の授業科目が少なく、正規学生と同じ授業を受講しました。そのため私も後期には英語とスペイン語の授業を一般学生と一緒に受講しました。

履修に制限がない分、自分の興味のある授業を好きなように選択をして時間割をつくることができるという利点もありました。

また、開講されている中国語の授業が少ないので、日本語の先生に個人的に頼んで、補いきれない中級の中国語の授業を行っていただいていたいました。

今後は留学で学んだ中国語を活かせるよう、また今の実力を知るためにも中国語検定や HSK を受験したり、継続的に秋田大学の中国語の授業を受講しようと思っています。

○ 生活面について

留学している間は学校の寮で過ごしていました。4人部屋に1学期、2学期とも台湾人と中国人のルームメイトと3人で暮らし、夏休みのみ、違う寮に移ってマレーシア人のルームメイト2人と生活を共にしました。日本にいた頃は、1人暮らしをしていて共同生活に対する不安があったのですが、実際に行ってみると、生活しているうえで特に習慣の違いなどはなく、同年代の子がたくさんいる寮は毎日がにぎやかでとても楽しく過ごすことができました。とりわけルームメイトとはほぼ毎日朝から晩まで一緒に過ごすので、姉妹のような家族のような存在になりました。また、寮に住むほとんどの人が中国語スピーカーなのでここで毎日生活することが生きた中国語の学びに繋がったと思います。留学直後など中国語が分からないときは友達が中国語を易しく言い換えて説明してくれたり、英語で教えてくれたりと親切に接してくれて、とてもアットホームな雰囲気がある寮でした。

また台湾は外食産業が盛んなこともあり、寮にキッチンはないので、食事は食堂や学校の近所にご飯を3食買いに行っていました。売っているものは台湾式料理で日本にはないものがほとんどでした。最初は慣れない台湾独特の風味と料理が日本に比べて脂っこく感じましたが、慣れてくると不思議とその風味もやみつきになりました。

私は特に滷味と雞排と COMEBUY という飲料店が好きで、



ある日の晩ご飯

この3つのお店にはたくさん通っていたので、店員さんから時々中国語上手になったね・・・と褒めてもらえたりすると、もっと上手に話したいと思うようになりました。このような些細な出来事を含め、中国語を勉強することが楽しい！もっと頑張りたいと思える環境が学校の外にもありました。

○ その他留学全般にわたる感想

龍華科技大學には日本人が私しかおらず、何も喋れない状態でした。着いたばかりのころは、これから1年ここで過ごしていけるのか不安でしたが、そんな私を友達が心配をしてくれて、日本語を喋れる友達を紹介してくれたり、1学期目の初級中国語と集中中国語の授業で中国語をどう喋るのか、どう表現するのかなどの基本的な部分をサポートしてもらい、不安も少なく留学を始めることができたことは本当に幸運でした。みんなが親切すぎて申し訳なく思うくらいでした。

また、1年間を台湾で過ごして、台湾は面白いところだと思いました。町には、ファミリーマートとセブンイレブンが何件もあって、生活用品店に行けば日本のコスメやシャンプー、お菓子を買うことができ、しかも日本の100円ショップもあるし本屋もあるし、百貨店に行けば日本の家電製品や洋服が売っていて、外国にいるのに日本にいるような気分になることもありました。また、たくさんの人が「私、日本の〇〇が好きなの」「日本に行ってみたい」などとよく声をかけてもらったり、日本に興味を持ってくれることがとても嬉しかったです。台湾での生活はとても充実した、私にとっては一生忘れられない1年となりました。

最後に私の留学をサポートいただいた秋田大学の皆さん、先生、家族、友達、台湾で出会った全ての方々に感謝したいと思います。



日本文化の授業で茶道体験